

# 説明補足資料

## 第4 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛 及び牛肉の流通の合理化に関する基本的 な事項

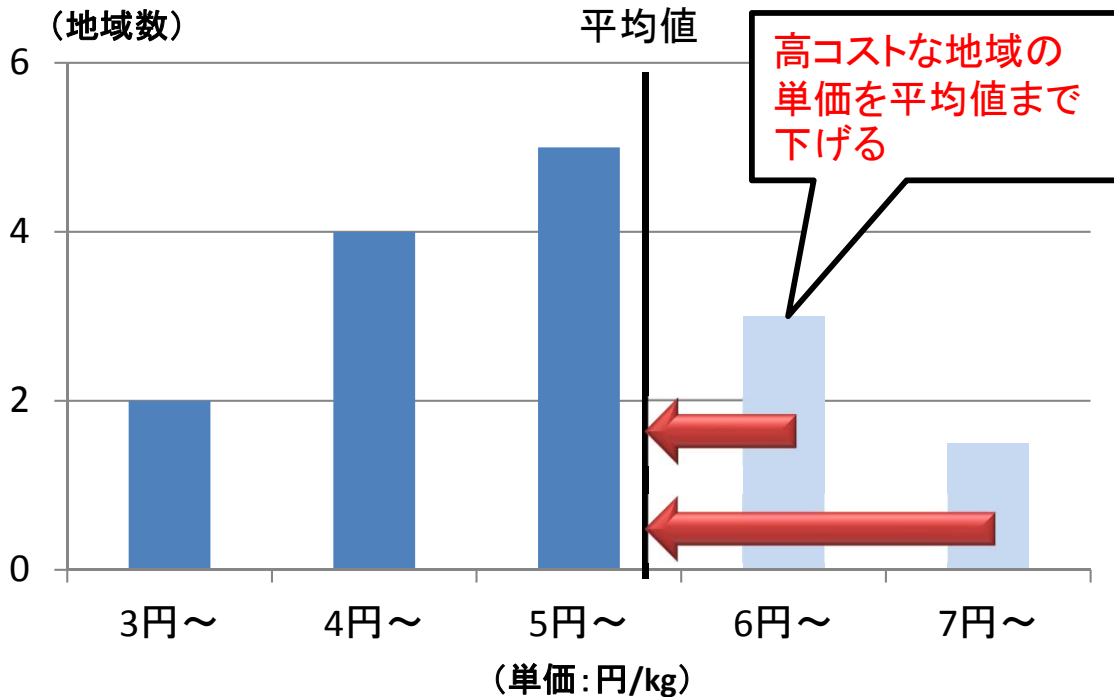
平成27年3月  
農林水産省生産局畜産部

# 集送乳の合理化目標について

## 集送乳等経費の目標：現状の9割程度

- 集送乳等経費については、酪農家の点在化や人件費の高騰等の環境にあるが、業務の指定団体への集約・一元化などにより、集乳路線・方法の合理化を進めコストを削減するため指定団体単位で目標を設定。
- 平成24年度集送乳等経費の個別実績を基準とし、各指定団体毎にタンクローリーの大型化による集送乳路線の削減や隔日集荷の普及拡大等に取り組み、特に、集送乳等経費が域内の加重平均値を上回る地域(農協等)について、域内の平均値までコストを削減することとし、その差額分を削減対象とする目標を設定。

集送乳等経費の分布(例)

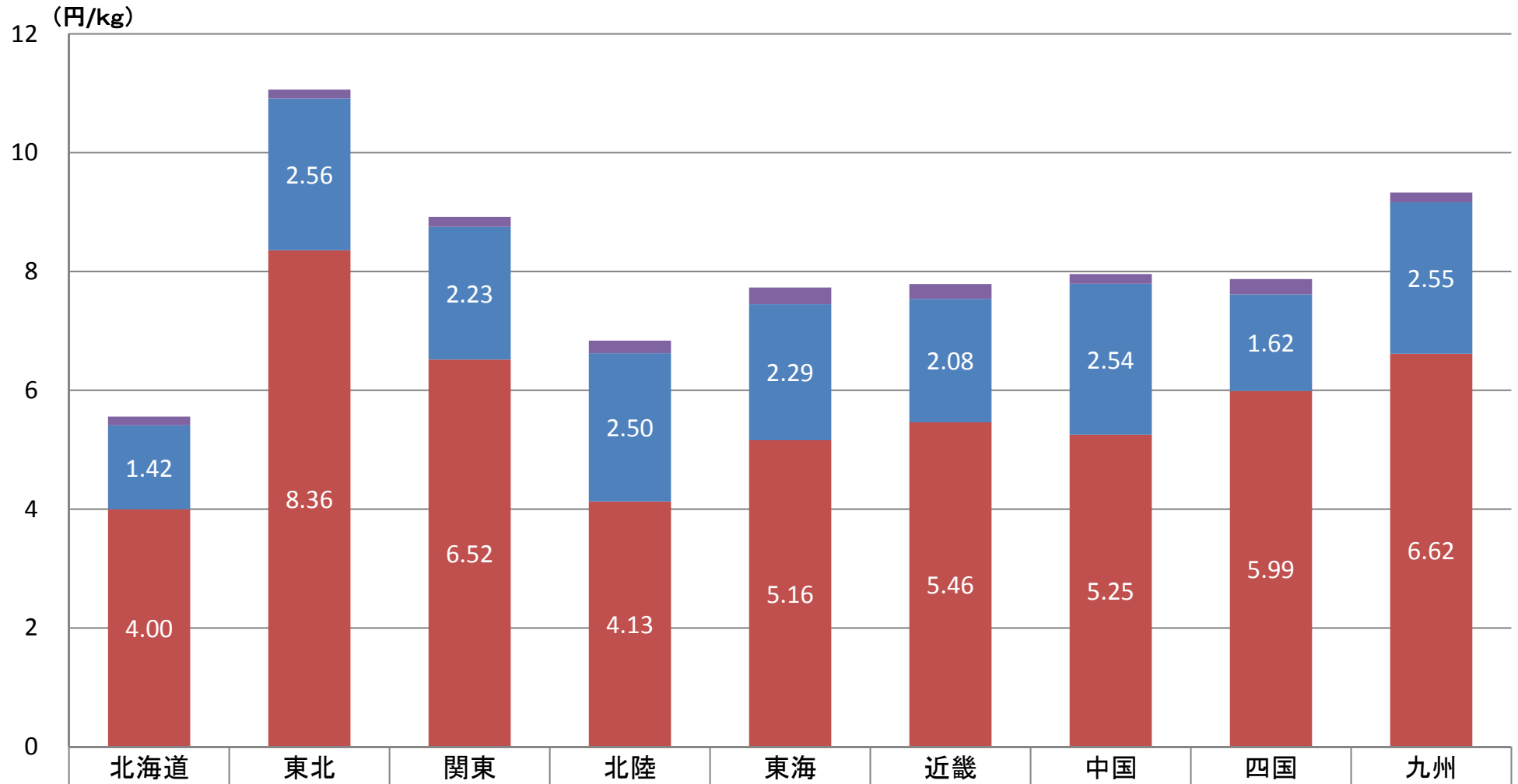


○ 指定生乳生産者団体別集送乳等経費(現状と目標値)  
(県会員、孫会員の経費を含む。)

指定生乳生産者団体	24年度実績 (円/kg)	削減目標 (%削減)	37年度試算値 (円/kg)
	A	B	C=A×(100%-B)
北海道	5.56	10%	5.00
東北	11.06	10%	9.96
関東	8.92	10%	8.03
北陸	6.84	10%	6.15
東海	7.73	10%	6.96
近畿	7.79	20%	6.23
中国	7.96	10%	7.16
四国	7.87	10%	7.09
九州	9.33	10%	8.40

H37年度の集送乳等経費の目標値：現状の9割程度

H24年度 集送乳等経費



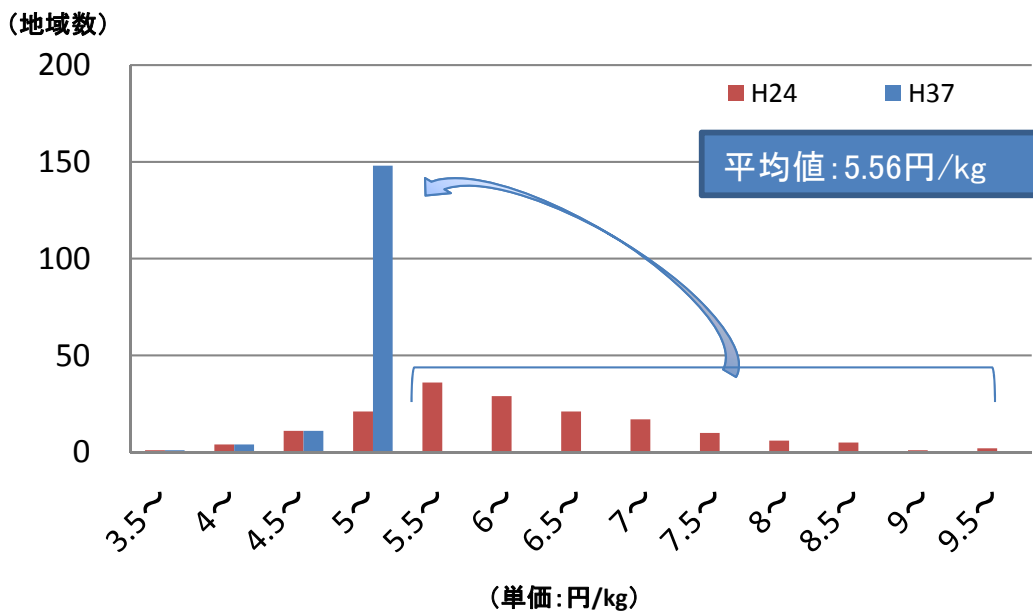
■ 検査費用	0.15	0.15	0.17	0.21	0.28	0.25	0.16	0.26	0.16
■ 手数料	1.42	2.56	2.23	2.50	2.29	2.08	2.54	1.62	2.55
■ 集送乳費用	4.00	8.36	6.52	4.13	5.16	5.46	5.25	5.99	6.62

資料: 牛乳乳製品課調べ

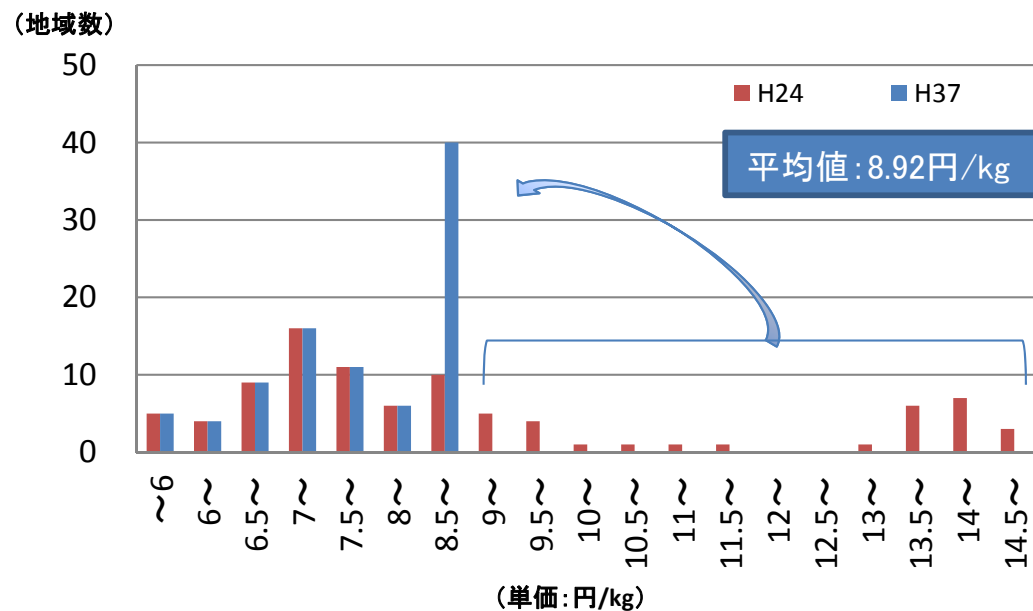
注: 指定団体、県会員及び孫会員の経費を含む。賦課金等は含まない。

# 参考資料 2-1 (地域別)

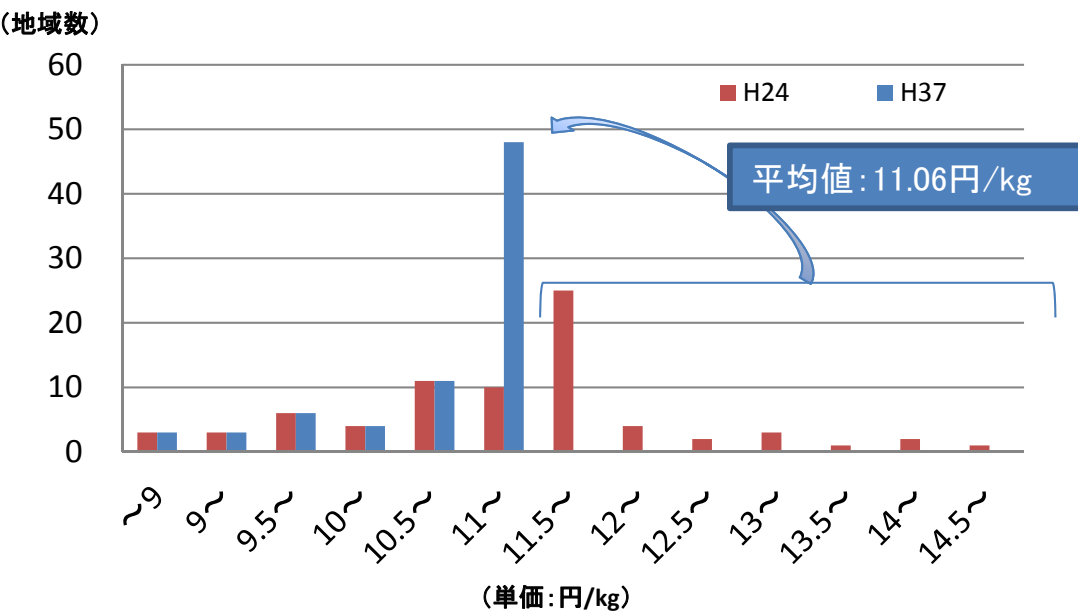
## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(北海道)



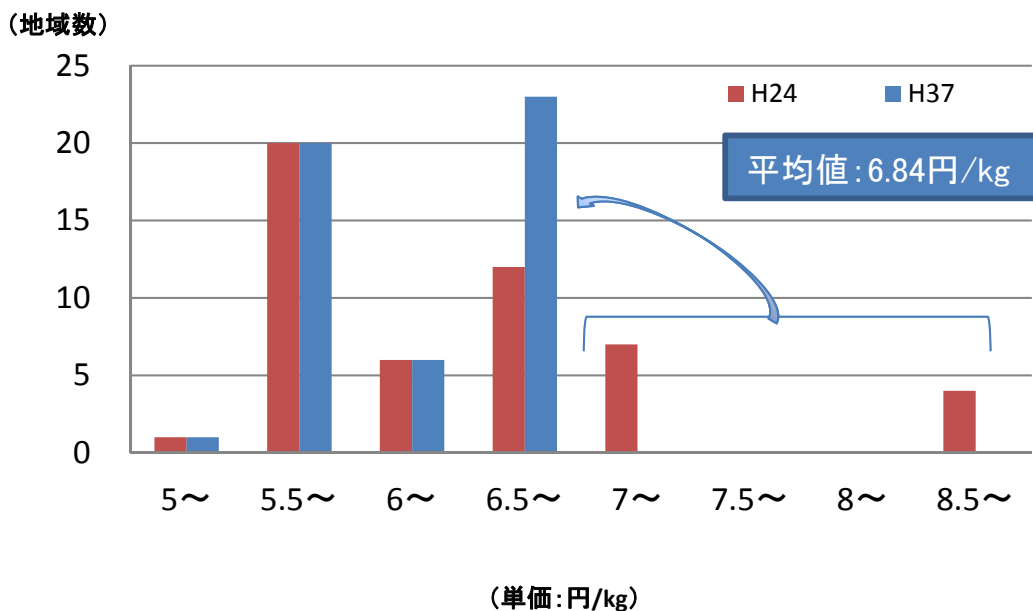
## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(関東)



## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(東北)

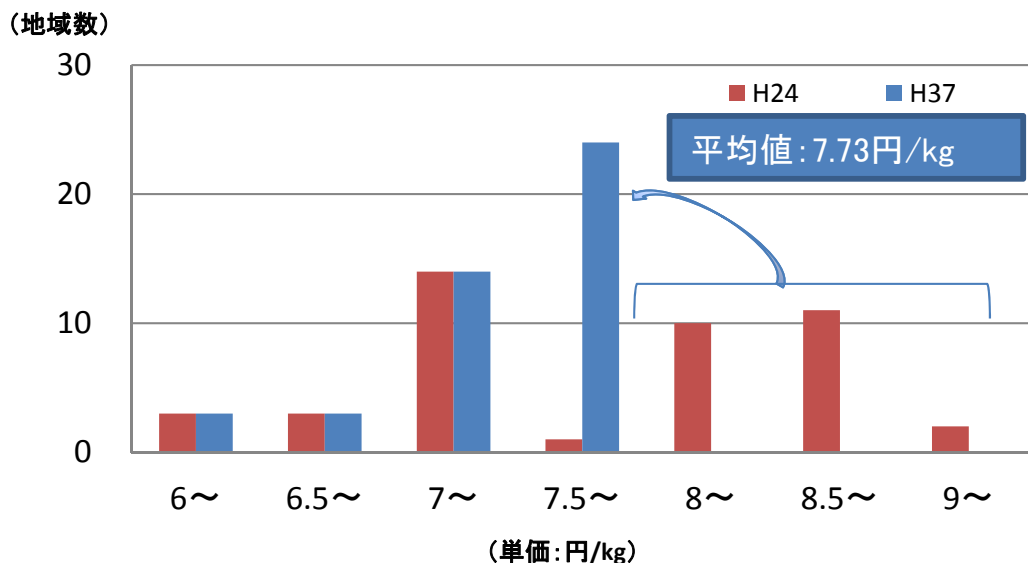


## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(北陸)

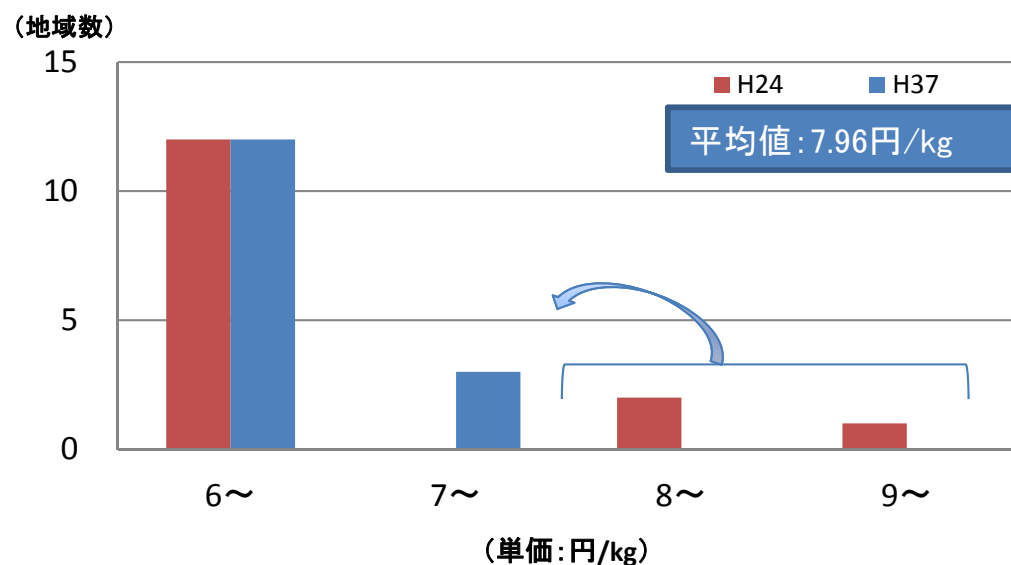


# 参考資料 2-2(地域別)

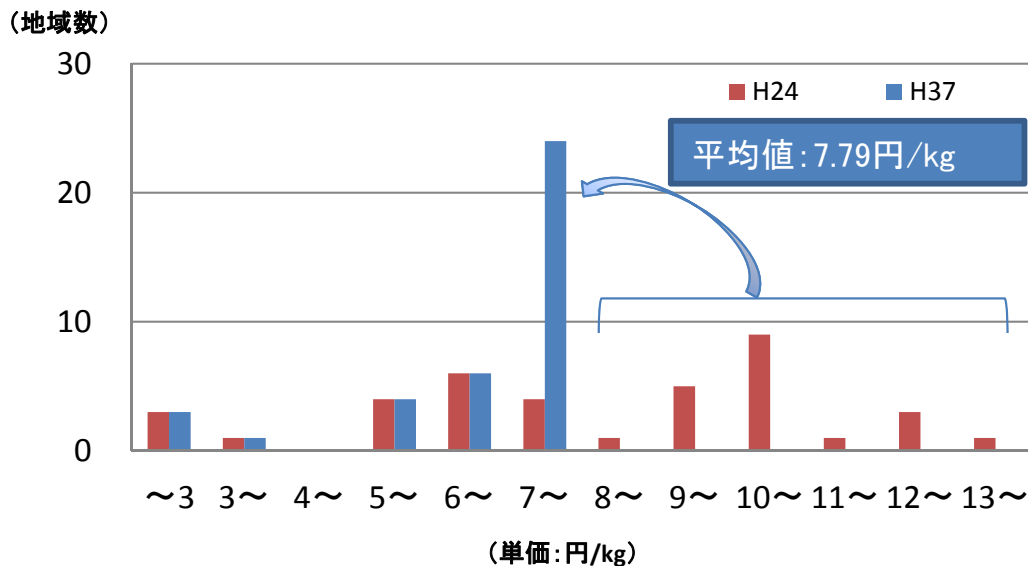
## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(東海)



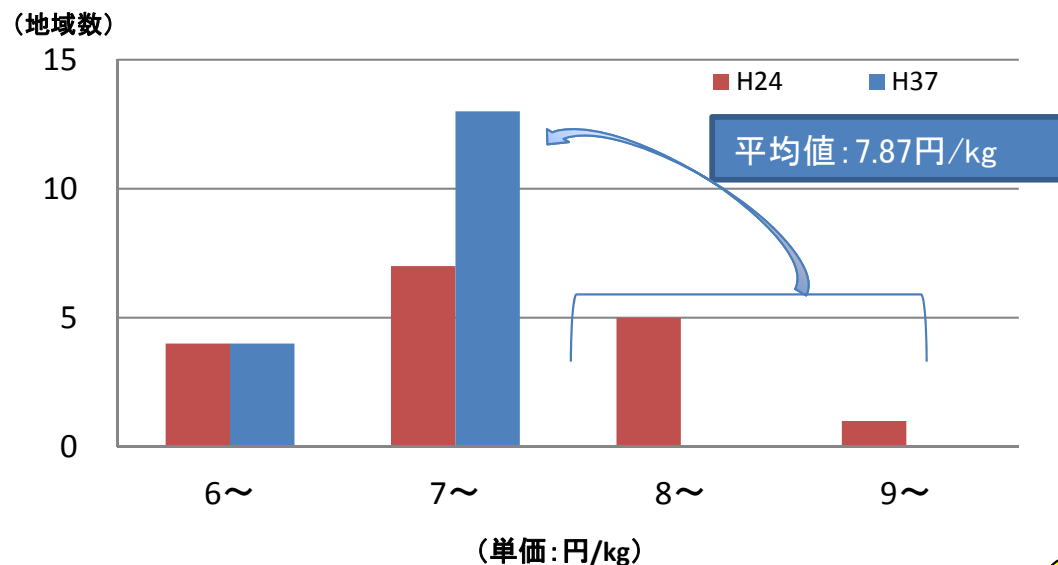
## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(中国)



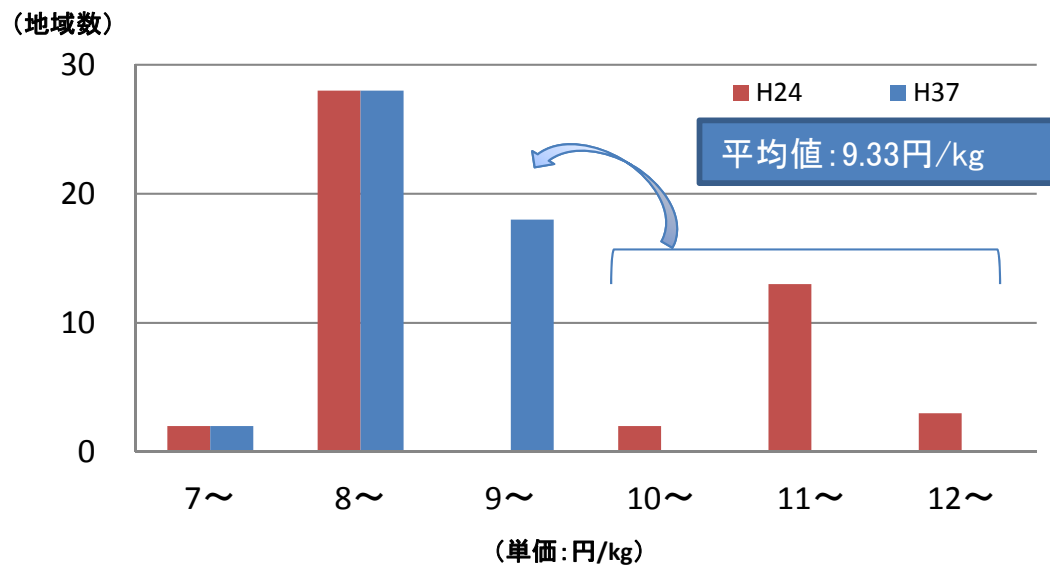
## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(近畿)



## 集送乳等経費の現状と削減後の分布(四国)



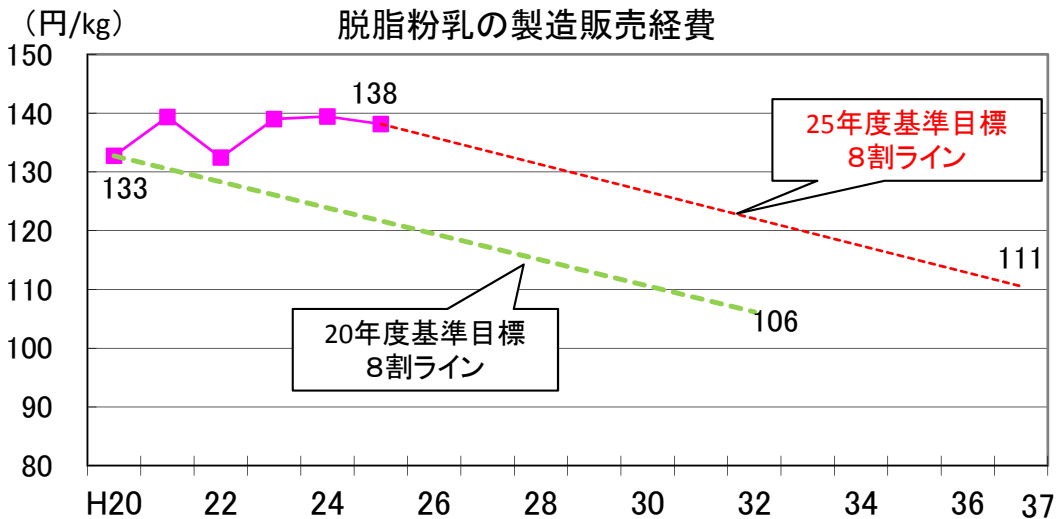
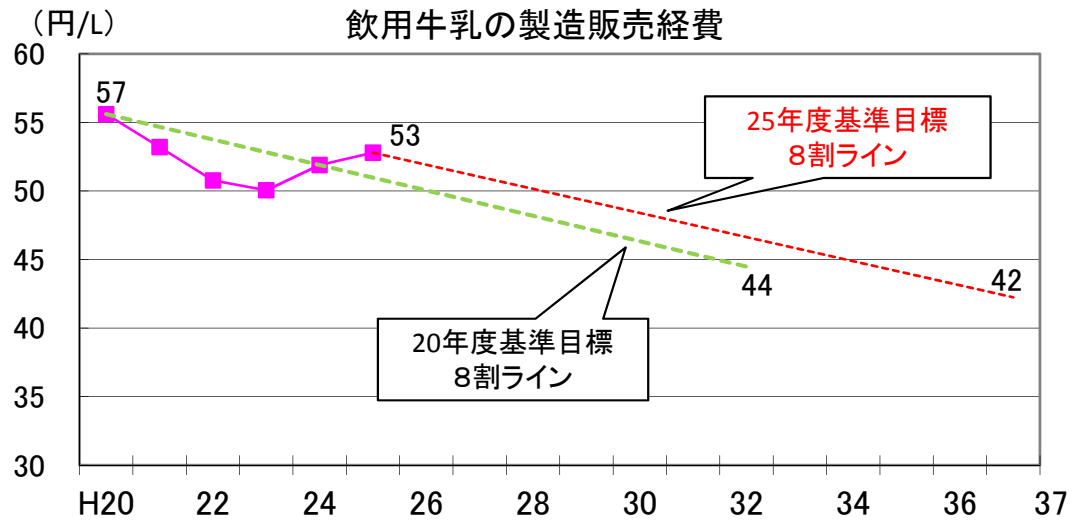
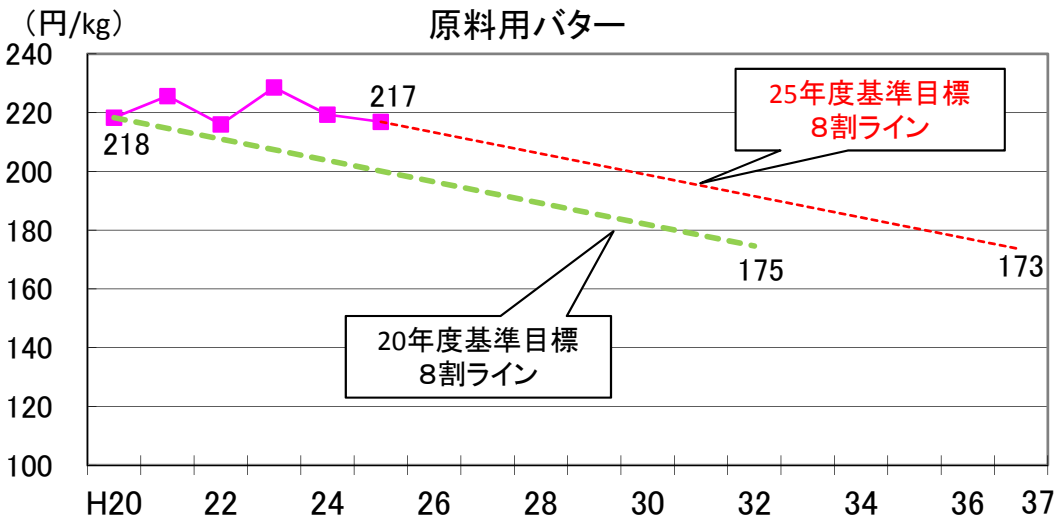
集送乳等経費の現状と削減後の分布(九州)



# 乳業の再編・合理化に関する目標について ①

## 製造販売経費の目標： 原料用バター、脱脂粉乳、飲用牛乳とも、現状の8割程度

- 原料用バター、脱脂粉乳の製造販売経費については、資材価格や輸送費等の上昇や乳製品工場の再編・合理化の停滞等により、ほぼ横ばい傾向。
- 飲用牛乳の製造販売経費については、飲用牛乳工場の再編・合理化の進展等により一旦低下したものの、近年は輸送費等の上昇により増加傾向。
- 平成37年度の製造販売経費の目標については、乳業の再編・合理化による工場の稼働率の向上、製造技術の高度化、製造・物流の省力化・合理化等を見込み、原料用バター、脱脂粉乳、飲用牛乳とも、現状の8割程度と設定。



注1) 製造販売経費の目標は、大きく影響を及ぼす資材価格や輸送費等の外部要因の影響を排除するため、金額ではなく、現状に対する割合としている。

2) 製造販売経費は、消費税、原料乳代、一般管理費及び支払利子を含まず、また、必要に応じ物価修正を行っている。

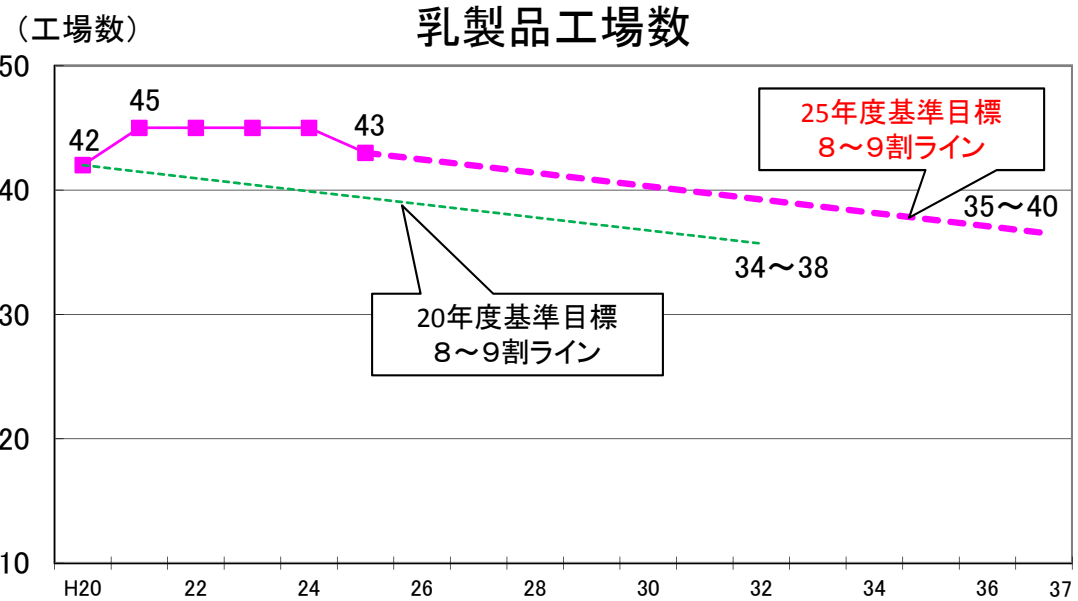
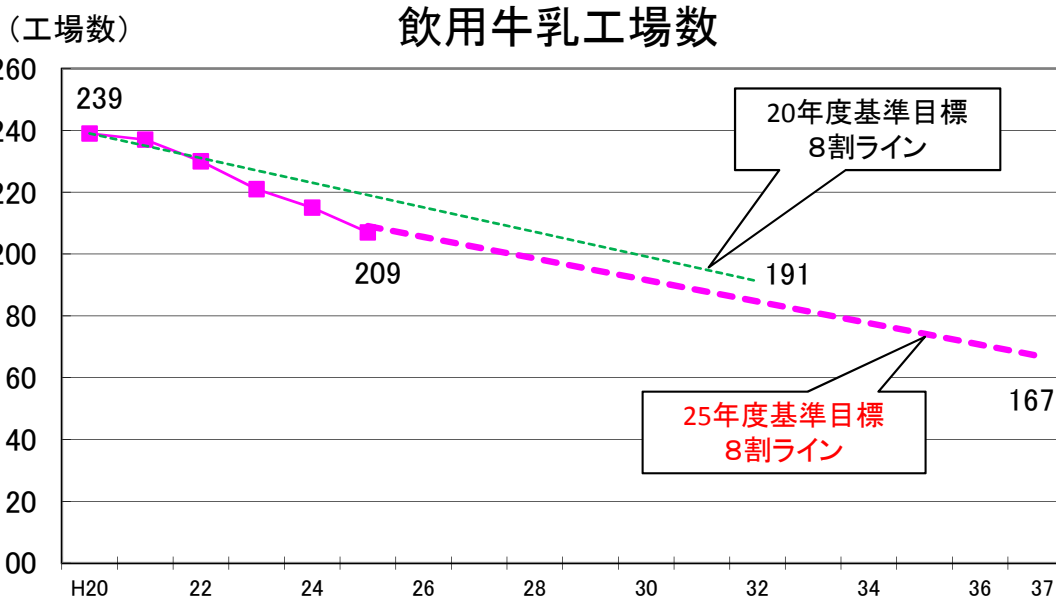
3) 調査対象は、原料用バター・脱脂粉乳では大手乳業を含み、飲用牛乳では大手乳業を含まない。

資料) 牛乳乳製品課調べ。

# 乳業の再編・合理化に関する目標について ②

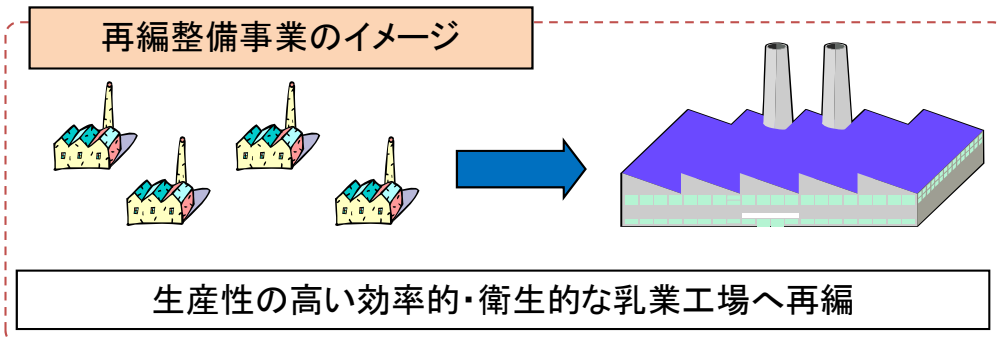
## 牛乳・乳製品工場数の目標： 乳製品工場は現状の8～9割程度、飲用牛乳工場は現状の8割程度

- 飲用牛乳工場については、現行目標(20年度基準目標の8割)ラインをクリアして再編・合理化が進展。
- 他方、乳製品工場については、一時的に再編・合理化が進んだものの、近年、発酵乳やチーズを中心とした需要増を背景とした製造品目の変更や規模拡大(※)により工場数が増加し、現行目標ラインをクリアしていない状況。
- 平成37年度の牛乳・乳製品工場数の目標については、乳業施設の更新が遅れている中小・農協系乳業を中心に再編・合理化を進める必要があることから、乳製品工場は現状の8～9割程度、飲用牛乳工場は現状の8割程度と設定。



注) 1日当たり生乳処理量が2トン以上の工場数

資料) 農林水産省「牛乳乳製品統計」



### ※ 乳製品工場の増加事例(20～24年度)

- ・製造品目を飲用牛乳主体から乳製品主体に変更  
2工場(40トン/日以上)
- ・乳製品工場の規模拡大(2トン/日未満→2トン/日以上)  
3工場

注) 新增設に当たっては、HACCP認証の取得が要件。

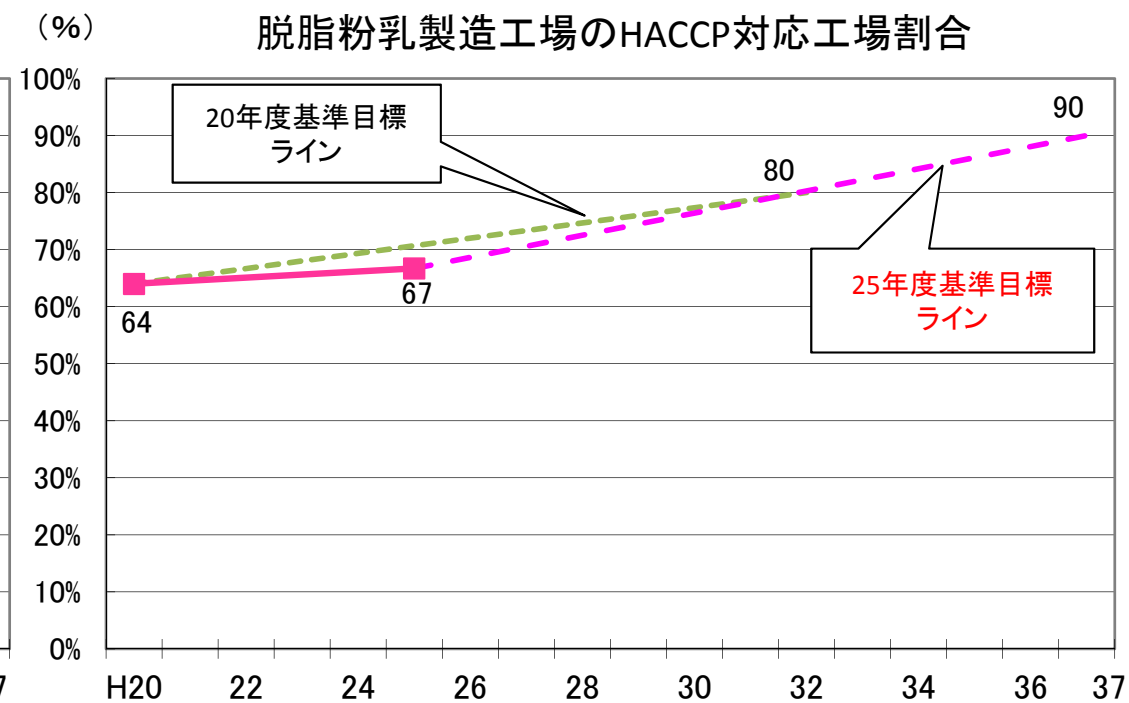
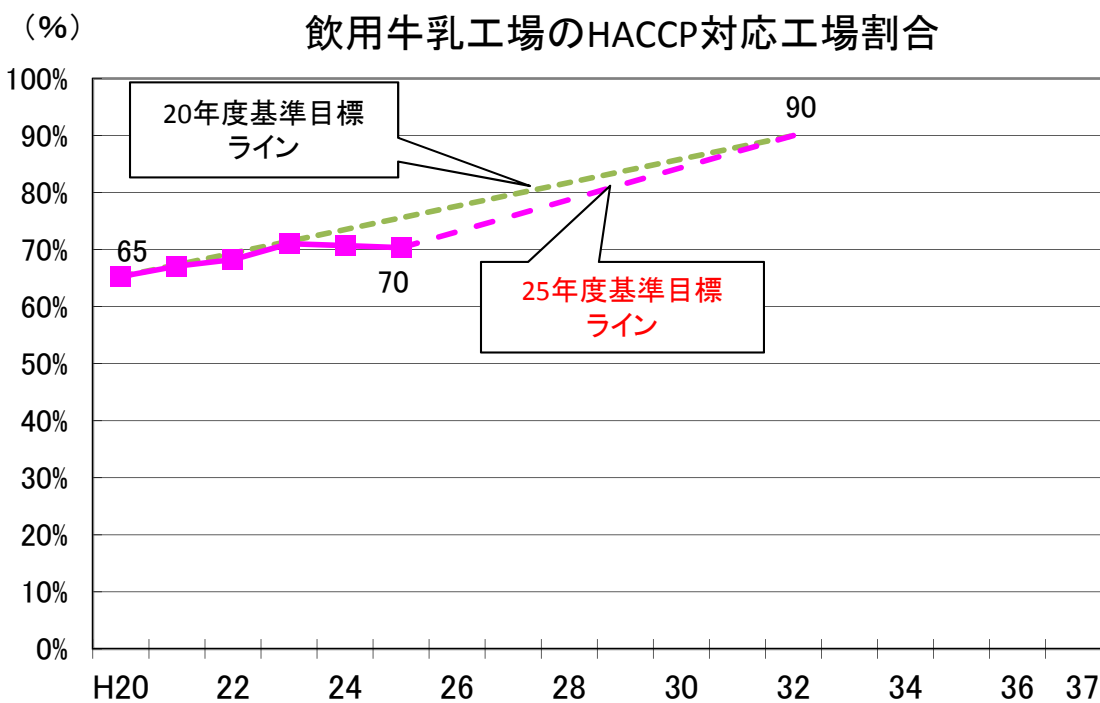


## HACCP対応工場割合の目標： 飲用牛乳工場、脱脂粉乳製造工場とも、現状の9割以上

- 飲用牛乳工場については、再編・合理化の進展に伴い現行目標(20年度基準目標)ラインに沿って増加傾向で推移してきたものの、近年横ばい。
- 他方、脱脂粉乳を製造する乳業工場については、再編・合理化が進んでいないこと等から現行目標ラインを下回っているものの、増加傾向で推移。
- 平成37年度のHACCP対応工場割合の目標については、消費者の関心の高い牛乳・乳製品の安全性や品質の更なる向上を図る必要があることから、飲用牛乳工場、脱脂粉乳製造工場とも、現状の9割以上と設定。

注1) HACCP対応工場とは、食品衛生法に定める総合衛生管理製造過程における承認取得工場を指す。

2) 飲用牛乳工場は1日当たり生乳処理量が2トン以上、脱脂粉乳製造工場は1日当たり生乳処理量が20トン以上、かつ1年当たりの脱脂粉乳生産量が1千トン以上が対象。



資料) 厚生労働省「総合衛生管理製造過程による食品の製造又は加工の承認状況」、農林水産省「牛乳乳製品統計」

# 牛肉の流通合理化について①

## 牛肉の流通合理化の目標: 1日当たり処理頭数620頭以上、稼働率80%以上

- 食肉処理施設の大規模化により流通・処理コストの低減が図られることから、これまでも施設の再編統合等により規模拡大が進展してきた。一方で、稼働率は60%台前半で推移。
- 産地食肉センターを中心とした食肉処理施設の再編整備を促進することとし、1日当たりの処理頭数及び稼働率の目標を設定。
- 処理頭数の季節変動を踏まえ、稼働率の目標を80%以上とし、その場合に必要となる1日当たりの処理頭数を目標とする。

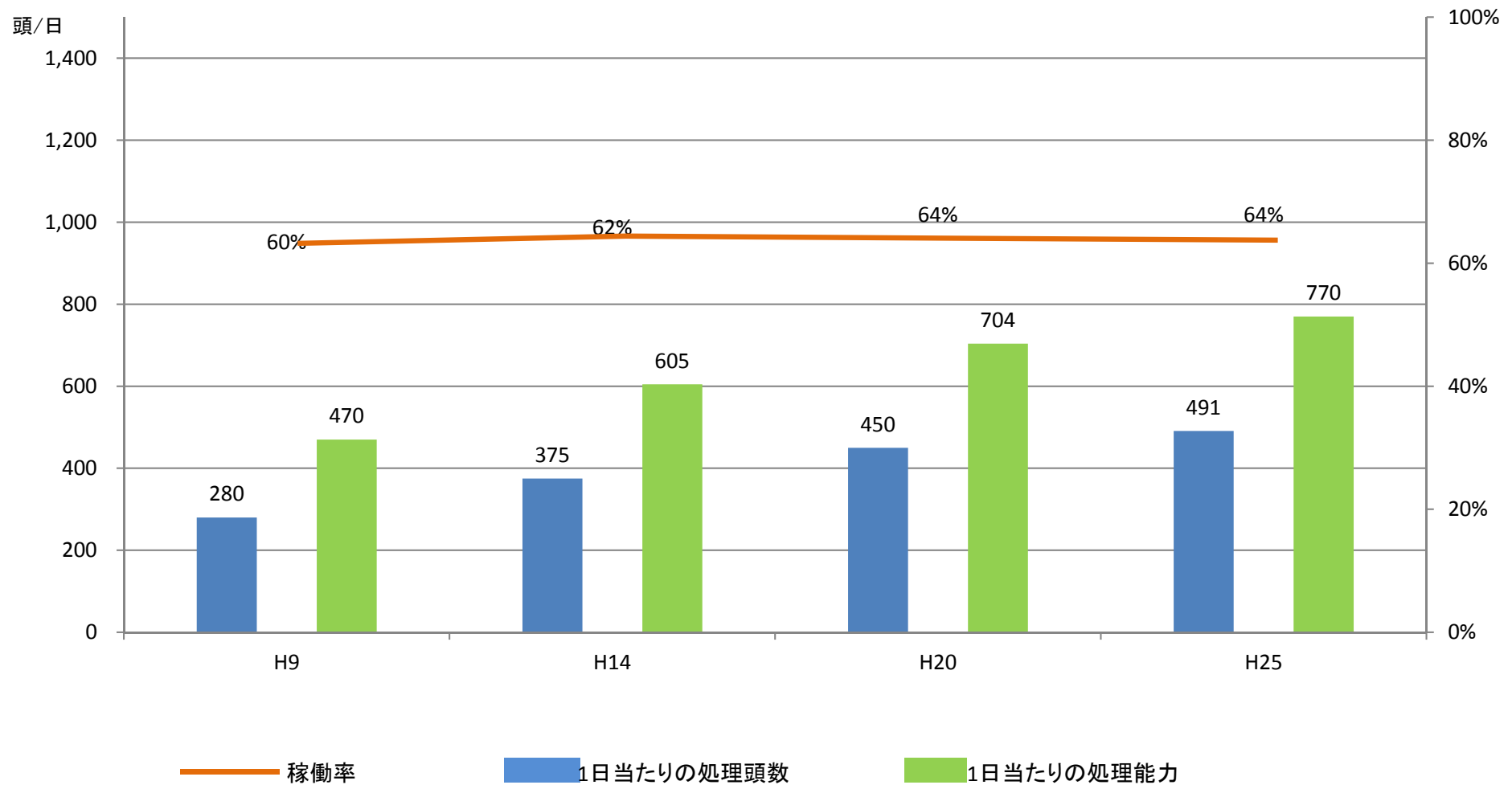
	前回(平成22年)		今回(平成27年)	
	現状 平成20年	目標 平成32年	現状 平成25年	目標 平成37年
1日当たりの処理頭数	450頭	560頭以上	491頭	620頭以上
稼働率	64%	80%以上	64%	80%以上
(参考) 1日当たりの処理能力	704頭	700頭以上	770頭	770頭以上

注: 頭数は、いずれも肥育牛1頭を肥育豚4頭で換算し、豚の頭数ベースで示したものの。

## 牛肉の流通合理化について②

- 集約化・大規模化により、1日当たりの処理頭数は増加。一方、稼働率は横ばい傾向で推移。

稼働率及び1日当たりの処理頭数等の推移



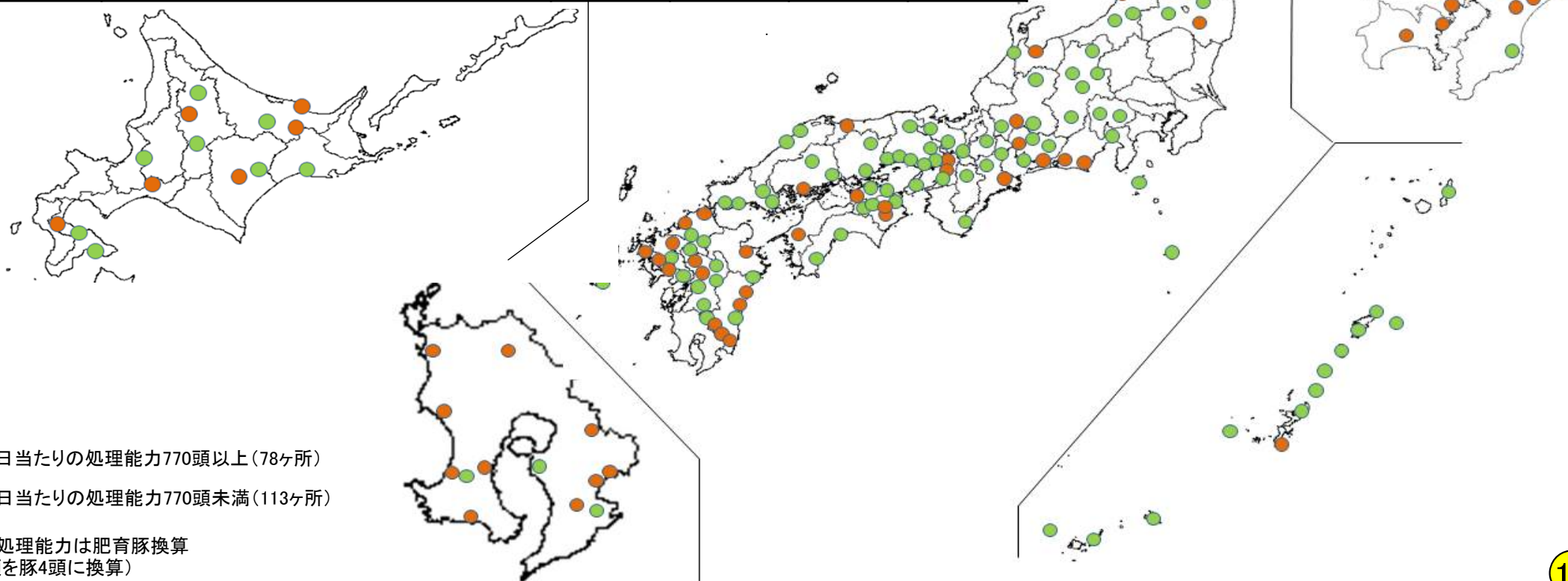
# 牛肉の流通合理化について③

- 食肉の流通合理化を図るため食肉処理施設の再編整備を実施。  
→ 規模拡大が進展するとともに、食肉処理施設における食肉センターの割合が増加。

食肉処理施設の種別施設数の推移

食肉処理施設の分布と規模

種類	概要	施設数(構成比)			
		平成9年	平成14年	平成20年	平成25年
食肉卸売市場	市場に併設されたと畜施設でと畜された枝肉を取引。価格形成機能を有する	29(9%)	28	27	27(14%)
食肉センター	と畜に加え、部分肉加工まで一貫して実施。	87(27%)	80	73	71(37%)
その他と畜場	と畜のみを行うと畜場等	202(64%)	132	99	93(49%)
合計		318	240	199	191



- 1日当たりの処理能力770頭以上(78ヶ所)
- 1日当たりの処理能力770頭未満(113ヶ所)

注)と畜処理能力は肥育豚換算  
(牛1頭を豚4頭に換算)